

小林市議会「市民との意見交換会」地区別意見交換会【報告書】

開催地区	南小校区	担当班	議員名	担当
参加人数	10人（男性9人 女性1人）		溝口 誠二	司会進行
開催日	平成29年7月11日（火）		淵上 貞継	活動報告
開催時間	午後7時～午後8時30分		森田 哲朗	記録・報告書作成
会場	南小学校 会議室		首藤 美也子	
その他			下沖 篤史	音響
		3班		

◎班代表者 杉元 豊人

意見交換会の内容		※□市民の意見	■議員の意見
統一テーマ	「地域交通について」・「空き家活用について」		
【意見交換の概要】 「地域交通について」 □何の事前相談もなく、こんな難しいテーマをもってくるのはおかしい。まず地域交通の取り組み現状を説明し、それから参加者に投げかけるべきではないか。 ■高齢化率が上がり、移動手段を持たない高齢者は市内全域で増えてきている。今後、共通する重要課題と捉えテーマとして取り上げた。議会でも議論を深め、地域の意見を伝えていく。 □このテーマについて、本日の参加者は不自由を感じていない。校区ごとに興味のあるテーマにしてほしい。 ■今後のテーマ選びの検討課題とする。 □議員は高齢者宅を訪問して意見を聞くべきであるし、区長には交通手段で困っている高齢者をここに連れてきてくれと要望すべきでは。 ■高齢者をはじめ、多く市民の意見を聞くように務めたい。 「空き家活用について」 □廃屋状態の空き家は、防犯上の問題があり、地域にとって景観も悪く、地域の人は早急な対策を望んでいるが。 ■空き家対策特別措置法が施行された。著しく危険で周辺への影響が大きい空き家を市町村が強制的に対処できる。空き家は所有者の財産でもあり、慎重な対応が求められる。 □空き家に移住してくる人は少ないのではないかと。実績はいかがか。 ■平成23年度から18件の申し込みがあり、現在13件が居住中（移住者含む）である。また、現在9件を募集中である。			

□空き家に移住してくる人の移住理由はどんなものか。

■故郷に戻って来た方や、小林市に住みたいと思い移住された方である。

□倒壊の危険性があり不潔で近所迷惑な空き家は、市で撤去しまちをきれいにしてほしい。解体費用は市で負担できないのか。

■議員間で討議していきたい。

□空き家バンクに登録してある入居者募集中の空き家の家賃はいくらか。

■空き家バンク制度では家賃斡旋を行っていない。当事者同士の話し合いとなる。要望があれば行政が市内の不動産屋を紹介する。

□空き家の財産盗難や火災に対して、どう対応するのか。

■空き家は所有者の財産。所有者自らの責任において管理することになる。

□登記されていない空き家が一番問題になってくるのでは。

■行政は空き家対策を効果的かつ効率的に推進するための「空き家等対策計画」の策定を平成30年度までに行う方針である。

□空き家の活用方法として、北九州の豪雨で被災された方々に本市の空き家を使っていたき、移住のきっかけにしたらどうか。

■議員間で討議していきたい。

自由意見の交換

※□市民の意見 ■議員の意見

□JR小林駅のホームにベンチを置いてほしい。特に朝一番の都城市に通学する高校生50人ほどが立ったまま待っている。

■要望は当局に伝える。

□市立病院の窓口対応は良い。しかし患者数が少ないような気がするが。

■どうすればいいのか議会でも一般質問や委員会審査を通して議論を深めていく。

□産婦人科医の招致がすぐにはできとは思っていない。産婦人科再開までの間、宮崎市や都城市に健診に通う妊婦に対し交通費を助成したらどうか。

■議会全体で議論し、地域の意見を伝えていく。

□産婦人科医の招致に市議会はどんな動きをしたのか。

■6月13日に本市、えびの市、高原町の西諸2市1町の首長3人と議長3人、県議3人で河野知事に陳情書を手渡し、医師確保等を申し入れた。知事からは「重要な課題だと認識している。補助制度など検討したい」との答弁があった。その後、7月7日に本市、えびの市、伊佐市、人吉市の議員70名が一堂に会し、「地域医療の確保を求める決議」を

行った。８月１７、１８日に４人の議長が上京し、関係省庁や地元選出代議士を訪問し、この決議文を渡し早期の解決を申し入れた。

□宮崎大学医学部へ医師派遣要請をしていないように感じるが。

■行政は宮崎大学医学部にも積極的に医師派遣をお願いしている。

□高校卒業して市外に出る割合は７３．５％に達している。このままでは先々若者がいなくなる。是非とも大企業を誘致し、若い人の働く場を確保してほしい。

■議員間で討議していきたい。

□工業団地を造成する話はどうなったのか。

■杉玉地区に３．９ヘクタールを造成する計画だったが、地質調査の結果、工業団地として不適地であった。

□常会で設置した防犯灯が４基ある。現在、組加入４世帯で電気料を払っているが財政的に大変苦しい。組の合併や防犯灯減も検討したが簡単にはいかない。市からの半額助成などないものか。

■議会全体で議論し、地域の意見を伝えていく。

□下水道設置の見直し回覧が回ってきた。費用対効果が低いことが理由だと思うが、逆に下水道をもっと広げて、まちをきれいにする発想が必要ではないのか。

■該当地域で「見直し説明会」が開催される。

□議員もたまには庁内を見て回り、職員の仕事をチェックしてほしい。

■心掛けていきたい。

◎小林市立病院での産婦人科（分娩）再開について

意見交換会では、小児科・産婦人科の充実を求める意見が各地区で出されました。その後、西諸出身の医師を中心とし、宮大医学部産婦人科の支援のもと、平成３０年７月から小林市立病院での産婦人科（分娩）を再開する運びとなりました。また、９月定例会では、妊婦等に対し通院にかかる交通費として妊娠１回につき２万円交付する予算が可決されました。

議会活動報告への意見

※□市民の意見 ■議員の意見

特になし